

## 第8回桃山学院大学・啓明大学校国際学術セミナー

### ——報告と討議の概要——

第8回国際学術セミナーは、12月14日～15日の2日間にわたって、啓明大学校東西文化館で開催された。

第1日目午前中は、今木教授の日本企業の国際化と国際競争・協調に関する報告と討論であった。近年、日本企業の国際化のピッチが速いだけに、日本企業の行動パターンに強い関心が表示された。韓国の現代自動車をどうみるか、日本企業が対韓投資をどう考えるかといった日韓間のトピックスに関する質問が多かった。午後は、朴副教授の韓国における協同小組合に関する報告と討論であった。韓国の中小企業協同小組合は、歴史も浅く、さまざまな問題点をかかえているが、成果もまた大きいので、これを(制度上)積極的に支援する必要があるという内容のものであった。企業家精神との関連や、日、米、台湾の先例と関連する質問があったが、韓国におけるこの種の研究は少なく、この報告はかなり貴重なものであったといえよう。

第2日目午前中は、筆者(私自身)の経済の構造変化と個人企業に関する報告であった。焦点は、日韓の構造変化(産業構造、所得構造、就業構造など)のスピードの比較とこれに関連する問題にあった。統計的データに基づくかぎり、日韓で構造変化のスピードを比較すると、所得関連のものを除けば、この20年間ギャップは予想以上に縮まっていない。この指摘はマスコミ等での昇龍イメージと異なり、各方面に討論をまきおこした。午後に行われた李助教授の報告は、韓国の工業化を韓日米間の三角加工貿易体制の視点でみるという興味あるものであった。結論は、三国間の貿易体制は三国が異なる発展段階(資本蓄積の状況)にあることを背景としている、という予想通りのものであった。しかし、韓国の工業化に関する分析には論客も

多く、また論理展開に実証(データ)を欠いていたこともあり、かなり辛辣なコメントがみられた。最後の松浦教授の儒教に関する報告は、従来の論理に反する意義深いものとして今後論争をまきおこすであろう、という積極的な評価があった。テーマが政治・経済・文化と広く関わるだけに重要な意味を持つであろう。反面、通説と異なる点については、かなり辛辣な意見もフロアから出た。

今回のセミナーの進行は、学会の分科会形式で行われ、討論者を立てて討議を行うという形式がとられた。いつものことながら、どの分科会も論議は白熱し、すこぶる盛会であった。第1日目にKBS(韓国放送公社)がこのセミナーについて15分間の放映をしてくれたこともあり、関心のある人はソウルでも我々のセミナーのことを知っていた。しかし、通訳を介してのセミナーを1時間30分で終了するのは困難で、いずれも2時間を経過したところで、質問を制して終了せざるを得なかった。今後は発表形式についても工夫が必要となろう。

第3日目は、大邱のガラス工場、慶州民族工芸村、浦項製鉄の見学、慶州観光と盛沢山であった。稲別学長、鈴木国際センター長以下3名が啓明大学校を16日に訪れ最終日の17日には、学生交換協定に関する覚え書きの調印式があった。所長の私と全委員はこれに出席した。同日夜方啓明大学校総長招待のレセプションがあった。食事をしながら、両国の経済、社会、文化にまで話がおよび、ここでもまた両大学間の交流が繰り広げられた。

われわれは、毎度のことながら、啓明大学校の総長を始めとする関係者の交流進展への努力を大変うれしく感じた。特にセミナーでは申壽澈所長、全景泰産業経営研究所幹事を始めとす

る関係者の熱意には心うたれるものがあった。  
今後も交流の発展を強く願うものである。

なお、この度のセミナーにおける報告者およびテーマは、次の通りであった。

#### 第1部

「日本企業のグローバリゼーションと国際競争・協調」

桃山学院大学経営学部教授

今木 秀和

#### 第2部

「中小企業協同小組合の運営実態と展望」

啓明大学校経営大学経営学科副教授

朴 命 鎬

#### 第3部

「経済の構造変化と個人企業——日・英・韓比較——」

桃山学院大学経済学部教授

伊代田光彦

#### 第4部

「韓国工業化と国際分業体制——韓・美・日三角加工貿易関係を中心として——」

啓明大学校社会科学大学貿易学科助教授

李 孝 永

#### 第5部

「日本における儒教型理想主義の政的役割——横井小楠と勝海舟の場合——」

桃山学院大学経済学部教授

松浦 玲

以下、今回は桃山学院大学の3名について掲載する。3編ともに、報告原稿をまとめたものである。収録に際して、論文名が一部修正されているものもある。 (伊代田 光彦)